



第551号

千鳥ヶ淵 戦没者墓苑奉仕会
公益財団法人
〒102-0075 千代田区三番町2
電話 03 (3261) 6700
FAX 03 (3261) 6712



http://www.boen.or.jp
郵便振替口座 00140-2-42556
編集人 塚田 章
発行人 榊枝 宗男

コロナ禍続く2年目の夏 戦没者慰霊の灯は継続

新型コロナウイルスが依然として猛威を振るっている中、例年、戦没者慰霊では賑わいを見せる千鳥ヶ淵墓苑から終戦の時期は緊急事態宣言中であった。慰霊行事実施団体より、緊急事態宣言中でもあり、実施の可否について多数の問い合わせがあったが、各団体の判断に委ねたところ、慰霊行事については参加規模の縮小などのコロナ対策を取りながらほぼ例年並みに執り行われた。特に、慰霊行事を予定している各主催団体に対して、「慰霊行事実施要領」という独自のガイドラインを示し、感染防止に留意して行事を実施することをお願いした。その甲斐もあって、7月の盂蘭盆時期と8月の終戦の時期には、例年慰霊行事を実施しているほぼ全ての団体により慰霊行事が執り行われ、例年と同様に「慰霊奉賛の灯」を継続して灯すことができた。



各団体等からの供花

左から三重県知事、京都府知事、福岡県、総理大臣(籠花)2コ、佐賀県遺族団、大分県知事、鹿児島県遺族連合会 (8.14撮影)

新型コロナウイルスが依然として猛威を振るっている中、例年、戦没者慰霊では賑わいを見せる千鳥ヶ淵墓苑から終戦の時期は緊急事態宣言中であった。慰霊行事実施団体より、緊急事態宣言中でもあり、実施の可否について多数の問い合わせがあったが、各団体の判断に委ねたところ、慰霊行事については参加規模の縮小などのコロナ対策を取りながらほぼ例年並みに執り行われた。特に、慰霊行事を予定している各主催団体に対して、「慰霊行事実施要領」という独自のガイドラインを示し、感染防止に留意して行事を実施することをお願いした。その甲斐もあって、7月の盂蘭盆時期と8月の終戦の時期には、例年慰霊行事を実施しているほぼ全ての団体により慰霊行事が執り行われ、例年と同様に「慰霊奉賛の灯」を継続して灯すことができた。

阿含宗関東別院 太平洋戦争戦没者供養 護摩法要千鳥ヶ淵万燈会
7月15日、昨年までの梅雨空と異なり、



この個人参拝者が訪れた。また、全国戦没者追悼式に先立ち、菅義偉内閣総理大臣をはじめ加藤勝信官房長官、田村憲久厚生労働大臣、小泉進次郎環境大臣等の関係や多くの国会議員による参拝があった。

厚生労働大臣による献花・拝礼
7月5日、田村厚生労働大臣は墓苑を訪れ献花・拝礼した。田村大臣は毎年5月の最終月曜日に開催されている厚生労働省主催の拝礼式が、今年も新型コロナウイルスの感染防止の観点から中止の止むなきに至ったため、コロナ対応や熱海での災害対応など大変多忙のところ今回の来苑となった。

千代田区長による献花・拝礼
7月13日、本年2月に就任した樋口高顕千代田区長が来苑し、墓前に献花・拝礼した。例年、ご遺族等二百名以上が参加する千代田区主催の戦没者追悼式が行われているところ、本年は新型コロナウイルス感染拡大の影響により、昨年に続き実施しないと判断されたことから、区長自身による献花・拝礼が執り行われた。



この刊行物は、宝くじの社会貢献広報事業として 助成を受け作成されたものです。

阿含宗関東別院 太平洋戦争戦没者供養 護摩法要千鳥ヶ淵万燈会
7月15日、昨年までの梅雨空と異なり、

阿含宗関東別院 太平洋戦争戦没者供養 護摩法要千鳥ヶ淵万燈会
7月15日、昨年までの梅雨空と異なり、

阿含宗関東別院 太平洋戦争戦没者供養 護摩法要千鳥ヶ淵万燈会
7月15日、昨年までの梅雨空と異なり、

妙智會教団 千鳥ヶ淵戦没者墓苑うら盆供養
7月14日、妙智會教団主催の千鳥ヶ淵戦没者墓苑うら盆供養が約40名の参加者のもと開催された。緊急事態宣言下での行事であり、間隔の維持、参列者に対する手指の消毒や検温など感染症対策には万全を期す形で行われた。

阿含宗関東別院 太平洋戦争戦没者供養 護摩法要千鳥ヶ淵万燈会
7月15日、昨年までの梅雨空と異なり、

阿含宗関東別院 太平洋戦争戦没者供養 護摩法要千鳥ヶ淵万燈会
7月15日、昨年までの梅雨空と異なり、

阿含宗関東別院 太平洋戦争戦没者供養 護摩法要千鳥ヶ淵万燈会
7月15日、昨年までの梅雨空と異なり、

阿含宗関東別院 太平洋戦争戦没者供養 護摩法要千鳥ヶ淵万燈会
7月15日、昨年までの梅雨空と異なり、

阿含宗関東別院 太平洋戦争戦没者供養 護摩法要千鳥ヶ淵万燈会
7月15日、昨年までの梅雨空と異なり、

阿含宗関東別院 太平洋戦争戦没者供養 護摩法要千鳥ヶ淵万燈会
7月15日、昨年までの梅雨空と異なり、

阿含宗関東別院 太平洋戦争戦没者供養 護摩法要千鳥ヶ淵万燈会
7月15日、昨年までの梅雨空と異なり、

### 新日本宗教青年会連盟による 戦争犠牲者慰霊並びに平和祈願式典

8月14日、新日本宗教青年会連盟(新宗連青年会)主催による「第56回戦争犠牲者慰霊並びに平和祈願式典」が約40名の青年会会員等が参加して執り行われた。



式典は午後6時に開始され、新宗連青年会宮本泰克委員長による挨拶の後、新宗連代表挨拶、参加8教団による教団別の拝礼、平和へのメッセージ、平和の祈り(黙祷)の順で執り行われた。例年行われている献灯・折鶴奉納や合唱などは三密を避ける観点から実施が見送られた。なお、本法要は昨年に引き続きイン

### 日蓮宗戦没者追善供養 並世界立正平和祈願法要

8月15日、日蓮宗主催の千鳥ヶ淵戦没者追善供養並世界立正平和祈願法要が執り行われた。例年約四百名が参加して行われるところ、本年は昨年と同様約50名に限定して行われた。



午前9時、法要は導師である中川法政宗務総長が墓前に着座して開始された。木鉦の音が高く響き荘厳な雰囲気の中で、宗歌斉唱に始まり、道場儀、勧請開経偈と続き、読経の際には参列者全員が焼香した。その後、修法、表白、唱題

ターネットによるライブ中継が行われ、加盟58コの教団の団員はこれを視聴することで参加した。

宮本委員長は挨拶において「本式典は毎年終戦記念日の前夜に、戦争で亡くなられた方々へ思いを馳せ、平和を祈願する行事として継続してまいりました。千鳥ヶ淵戦没者墓苑にお鎮まりになられている約37万体の御霊をはじめ、すべての戦争犠牲者に対する追悼と、今日ある平和の礎を築いてくださったことに感謝を捧げます。

戦後76年経ち、戦友会や遺族会は、一部、子や孫の代に引き継がれてきておりますが、その多くは節目節目で解散されていきます。戦後、平和な時代を享受してきた日本で、戦争の記憶が急速に風化しつつあるのではないかと、危機感を感じています。

私たちの考える宗教は、世界がこの世だけで完結するのではないと考え、いのちの永遠性やそのつながりを信じてきたのではないのでしょうか。もしそうであれば、過去に失われたいのち、

回向、四誓、奉送と続き戦没者のご冥福をお祈りした。最後に導師である中川法政宗務総長より挨拶があり「私ども日蓮宗は当墓苑が設置されました昭和34年の8月15日から毎年、追善供養を続けて参りました。本年もご遺骨の前で全ての戦没者の諸霊位に追善の誠を捧げ、世界立正平和と共に海外に残されたご遺骨の一刻も早いご帰還を祈念致しました。そのような中にもあっても、絶対に忘れてはならないのが、異国の地で苦しみに絶望の中、望郷の念を懐いて亡くなられた、戦没諸霊位へのご供養と感謝であります。その事を通じ、霊と我等が心一つになってこそ、諸霊位は成仏を果たし、我等はコロナや災害に負けぬ、生き抜く勇気を得る事が出来ると信じております。人類共に手を取り合って、異体同心に一日も早く世界平和が実現すること願っております」と結び、法要は終了した。

そして、これから生まれてくるいのちに対して、私たちは文字通りの意味で自分事と捉える必要があります。日本社会の中で、必ずしもマジョリティとは言えない信仰を持つ私たちが、しかも若い世代で、本式典を継続してきた意義はそこにあります。私たちはこの式典に込められた願いとともに、その意義をしっかりと受け継ぎ、そして次の世代へと伝えていかなくてはなりません」と述べ、戦没者慰霊について次世代への継承の重要性を強調した。

なお、当日は本行事に先立ち、午後4時45分から新宗連所属会員である解脫会会員約30名により独自の法要が執り行われた。

### フォーラム平和・人権・環境 戦争犠牲者追悼 平和を誓う8・15集会

8月15日、フォーラム平和・人権・環境(平和フォーラム)主催の戦争犠牲者追悼・平和を誓う8・15集会が行われた。正午の黙祷に始まり、藤本泰成平和フォーラム代表、近藤昭一立憲民主党衆議院議員、服部良一社民党幹事長、阿部知子立憲フォーラム副代表等による「誓いのことば」が述べられ、その後参加者による献花が行われ式典は終了した。

藤本平和フォーラム代表は誓いのことばの中で「多くの兵士の遺骨は家族のもとには戻らず、異国の地に無残にも打ち捨てられた多くの人々の無念を私たちは忘れてはならない。命の尊厳はいついかなる人に対しても護らなければならず、この千鳥ヶ淵戦没者墓苑に眠る多くの(関係者の)皆さんとともに、そのことを問うていきたい」と述べた。



この千鳥ヶ淵戦没者墓苑に眠る多くの(関係者の)皆さんとともに、そのことを問うていきたい」と述べた。

### 令和3年度シベリア抑留関係者 埼玉県慰霊祭

8月16日、全国強制抑留者協会埼玉県支部による慰霊行事が10名が参加して執り行われた。行事は通常各団体が行う六角堂前ではなく、墓苑東側に位置する戦後強制抑留・引揚死没者慰霊碑の前で行われた。

慰霊行事は10時から開始され、黙祷、式辞、追悼の言葉、献花などが行われ、最後に前川実行副委員長による謝辞で終了した。実行副委員長が代読した座間実行委員長の式辞において「今日の日本の平和と繁栄があることに思いを

### 【語り継ぐ戦中・戦後(19)】 父の思い出

宮崎県宮崎市 関谷 忠

私は、真珠湾宣戦布告の5日後に生を受けその後僅か2年8か月間、父は私をあやし、家庭生活を味わいながら昭和19年8月フイリピンに出征、6か月後、マニラ市街戦にて砲弾を浴び30歳の若さで人生を終えた。

私は父の顔は全く記憶にない。南の島々が玉砕されフイリピン攻撃が開始される中、赤紙1枚で戦地に赴き、火中に飛び込んだも同然、虫けらみたいに夥しい、悲惨な戦死を遂げた。昭和22年、戦死公報が届く、白木箱に石ころ2つ入った遺骨、変わり果てた姿に親子で泣き崩れ、悔しき、悲しきで今でも頭から消えることはない。葬儀の際、墓地で遺骨を抱かせてくれとだだを捏ねたことを記憶している。

母の苦労が始まる。父の収入で賄っていた生活が一変、母は幼い子ども2人(姉と私)を抱え生計を立てる身となり、人には言えぬ哀れさ、悲しさ、苦しさを余儀なくされ、仕事のない時代、収入になれば何一つ弱音も吐かず男顔負けの仕事を朝から夜まで休みなく働いた。お陰で健康に恵まれ涙一つ見せず家庭を支え続けた。

馳せ、このことを未永く後世の人々に伝えなければなりません。抑留中死没された皆様の慰霊供養を行うとともに、悲惨な抑留の史実を風化させることなく次世代に伝え、平和を築くため努力して参る所存であります」と述べた。なお、本慰霊行事は埼玉県支部設立後、最初の事業として行われた。



母の口癖、片親だから、学校へ行かせてもらえなかったという辛い思い出はささたかない、人並み以上に育て上げるまで頑張るぞ、そうしないと戦死した主人に申し訳ないと常々話していた。

「父がいれば」と、母の生計を立てる姿をみて枕をぬらす日々であった。戦後75年、戦中、幼い妹が病死している。遺された者の立ち直りは早かったと思う。父の死は何年経っても悔しき、悲しき、そして怒りは消えない。

結びに戦没者二百四十万人、祖国の安泰と平和を願い、家庭の幸せを念じながら戦地に赴き帰らぬ人となり、また、一般住民が戦渦に巻き込まれた事は日本国にとつて大きな損失となった。二度と戦争は起こしてはならない。そして今の平和と繁栄は、尊い犠牲の上に築かれた事を忘れてはならない。

戦争の悲惨さや理不尽さ、平和の有り難さは永久に語り継がねばならない。自分達のような遺児を二度と出さず、恒久平和につながる。

### 【語り継ぐ戦中・戦後(21)】 父と私の75年

大阪府枚方市 森谷 世都子

戦後75年の今年、この企画への投稿

### 【語り継ぐ戦中・戦後(20)】 魅力ある墓苑建設を

東京都新宿区 玉木 四郎

1945年の終戦より75年、日本はその間戦争に巻き込まれることなく平和に過ごせました。先の大戦で犠牲になられた人たち(以降「御霊」と呼びます)の平和を求め声なき声で、国民の平和への叡智とその努力の賜です。

戦後百年に向かつて、戦争の参入を阻止するには、「御霊」の声と国民の平和への叡智と努力の三点が欠かせません。このことを国民に理解してもらい、これからの四半世紀に生かして頂きたいものです。歴史上で最も不幸な人々とは、千鳥ヶ淵に眠っておられる「御霊」たちといえるでしょう。戦争で命を奪われ、遺骨となつて帰国されても引き取つてくれる人はいりません。そんな「御霊」たちの思いこそ平和を願うシンボルといえます。これからの四半世紀は、シンボルとしての「御霊」たちの思いを実現することで、その答えは千鳥ヶ淵にあります。

平和国家の将来像を考えると、若者達の平和への意識こそ必要不可欠といえます。戦後75年、ご遺族の影が薄くなる昨今、戦争の悲劇や平和の有り難さを肌で感ずることが少なくなりました。それを補うためにもお子たちや若者たちへの平和への意識高揚が不可欠で、それ故に千鳥ヶ淵戦没者墓苑に、彼らに対する平和への役割を期待する次第です。

『子たちや若者たちに魅力ある墓苑建設』を千鳥ヶ淵に作りましょう。

- ①お子達を連れて家族の憩いの場所にできる公園や遊園施設の設定
- ②都内や地方の小中学校が平和教育の一環として勉強できる資料教室の創設
- ③若い独身カップルが参拝できる場所として、軽食や喫茶・記念品などの売店の設置
- ④全国から老若男女が参拝出来て、東京の新名勝史蹟になり、平和のシンボルとなるような千鳥ヶ淵戦没者墓苑を

合掌

に私はためらいがあった。昭和19年(1944年)5月、四国の工兵隊は、香川県善通寺師団、広島師団、九州(久留米、小倉、熊本)師団と第102師団に編成され、父は北九州門司港から出征。(第三面につづく)

苦難の末、生きて祖国の土を踏んだからだ。

50万人もの戦死者を出したフィリピン。そのネグロス島にて飢餓戦線をさまよった。父は40年以上、手記を温めていた。

父が病に倒れ、校正を手伝う私は、背に戦友のみなさまの応援を感じ、辞書片手の毎日が続いた。「マンガラガン」の果てに「フィリピン・ネグロス島日本軍の記録」実に終戦から45年の星霜を数える初夏の頃だった。

【語り継ぐ戦中・戦後②】 戦中・戦後の想いを語り継ぐ

奈良県北葛城郡 吉村 公

昭和19年6月、長兄は召集令状を受けて大阪府高槻市の工兵連隊に入隊。訓練もそこそこの南方戦地へ出兵すべく門司港へ移動、ここで待機中とこま

分乗して上海付近に待避して生存、戦後帰還した元中隊長から輸送船摩耶山丸(二万余屯)が東シナ海において魚雷攻撃を受け沈没の状況を詳細知ることが出来た。戦後混乱した社会の中、詳細な状況報告を受け感謝。詳しくは奈良県遺族会発行「戦後70年誌・英霊と歩んだ道」に掲載。

時に四男の私は旧制中等学校3年生。19年7月、学徒動員で名古屋市の軍需工場へ。翌20年から工場への爆撃が激しくなり、ついに寄宿舎もB29の夜間油脂焼夷弾攻撃を受けて全焼。着の身

昨年末、私は南の島々へ初めての慰霊の旅に出た。ネグロスには上陸出来なかつたけれど、マクタン、セブには行く事が出来た。最終寄港地ニューギニアのラバウルでは、光のイルミネーションの船が総出で見送って下さった。こちらの別れの汽笛に呼応して、港緑灯をグルグルと回して行く手をいつまでも見守って下さった。悲しい戦争後の固い友情と、

終戦から長くて短い75年という年月が過ぎてゆくこととしている。今、謹んで亡き方々にお伝えしたい。「日本はこの75年間、戦争がないよ」この歳月、心はいつも共にあったよ。最後に、私達の想いをここに結集して下さる関係各位に、厚く感謝申し上げます。

着のまま愛知県岡崎市の仮宿舎に入る。同年7月、岡崎でもB29の夜間焼夷弾攻撃で、焼夷弾の雨霰の中、火災と煙に阻まれ燃え盛る民家の隙間を一般市民の人々と共に走って高台に避難。宿舎も工場も失ったが一命は取り留めた。そのまま名古屋を経て、現近鉄電車で奈良県近鉄下田駅下車。当時の国鉄下田駅から貨物列車に便乗、王寺駅へ、友人を誘って深夜に帰宅。

時に学校は夏休み期間中のため自宅待機。しかし国鉄王寺駅は旅客貨物の分岐点、蒸気機関車の主要な駅のためグラマン戦闘機の機銃掃射の的となった。20年7〜8月にかけて機銃掃射の嵐の中逃げ隠れ、防空壕に駆け込んだ。死者、怪我人多数。民家に火災も発生した。王寺駅のプラットホームの屋根は戦後も長く蜂の巣のように穴が開いていた。当時の凄まじい攻撃の様子分かる。

8月15日(晴)、正午に天皇陛下の放送がある。今日の朝刊は午後発行と、朝から異様な雰囲気を感じる。玉音放送はよくは聞きとれなかったが、近隣の大人の話から戦争が終わった事を感じた。翌日からB29の姿は1機また1機と偵察なのか、稀となった。次兄は和歌山の駐屯地から復員。ここから戦後が始まる。闇市場の賑わうこと。大阪市は勿論、王寺駅前でも戦中の極端な物資不足から衣食何でもありの戦後風景。そうした中にも復興の植音も高く、新憲法の制定、農地改革、教育改革等は特に印象に残る。ここにすべてのご英霊に対し心からの哀悼の意を表し、永遠の平和を祈念申し上げます。

【語り継ぐ戦中・戦後③】 戦友たち

長崎県西彼杵郡 中野 清香

戦時中、私は中国で4年、東部ニューギニアで3年の7年間、軍隊で過ごして来た。ニューギニアの悲惨な戦場では、何度も死の淵を覗く思いをしたが、その都度戦友達の助けられ、奇跡的に生還した。その命の恩人の戦友の多くが生きて帰れなかった。

戦争が終わって、昭和21年1月、島を離れる復員船の甲板で、海岸の白い砂浜や遠い山並みを眺めながら、戦場に置き去りにされた亡き戦友達を、何時の日か必ず迎えに来ようとして心に誓った。念願が叶い、平成3年、初めて政府派遣の遺骨収集に参加し、セビック河岸部落や海岸地区で収骨作業に携わった。以来平成22年まで6回の遺骨収集に参加し、慰霊巡拝で3回、戦跡を巡り、当時世話になった住民の子や孫にも会い礼を述べた。

またその間に種々貴重な体験をした。最期の平成22年には、長い間の宿願であった、カイヤピットを訪れた。此処では民家の軒先で、2年前に発見された鉄骨を被ったままの頭蓋骨が掘り出された。骨を取り出すと、頭部を貫通した銃弾が鉄帽の後頭部に食い込んでいた。正に壮

各団体の慰霊参拝



普明会教団 (7.4)



千代田区海洋少年団 (7.10)



喇叭保存会 (7.11)



阿含宗清掃奉仕 (7.11)



水交会 (7.21)



喇叭伝承会 (8.15)

◎奉納、参拝団体・参拝者(敬称略、順不同) 普明会教団、妙智會教団、阿含宗関東別院、帝國華道院研究部、水交会、高橋芳幸、重松昌二郎、松浦はる奈、山本勝久、藤原淑子、秀平良子、小笠原正二、広み、廣川貞雄、宇佐見光男、井上公郎、白石津津子、笹隆治、哲子、小坂 敬、田村 力、宮崎遼一、柴田米実、プラビチャヤ・プロムマース

◎奉仕会年度会費納入者・団体(敬称略、順不同) サンエイト建築企画有限会社、鈴木利子、山中 薫、金田郷史、加藤史明、清水則廣、清水則廣、松永 昭、岩田司朗、泉田和則、中村妙子、津田 章、大澤一久、池田功一、加藤敏子、林 昭一、高梨節夫、松浦多賀夫、鈴木純夫、亀山和子、亀山恒夫、野口 修、新井 茂、勝見登志子、滝波 登、幸村龍一、佐藤直辰、藤木俊一、清水せつ子、長谷部文雄、吉村 公、山田フヨ、藤井英二、熊田浩三、今井敏夫、松尾敏一、山崎敏哉、福居寛美、坂田七郎、白坂忠良、藤田憲二、渡邊守久、荒井紀子、田浦政彦、平塚龍哉、真鍋賢二、原田敏裕、齋藤宣明、綿貫雄介、土師野良明、中西一郎、小林孝太郎、西口邦左、飯島英毅、遠矢みち子、國澤輝生

◎新入会員(敬称略、順不同) 森 一夫、加藤憲一、村田克彦、土屋慎子、岩崎喜久服部考成、向井市朗、谷野仁美、永野 充、大崎信久

◎参拝団体(前項以外、敬称略、順不同) 喇叭保存会、喇叭伝承会、JYMA日本青年遺骨収集団、千代田区海洋少年団、衛生学校、御茶ノ水女子大

◎清掃奉仕(敬称略、順不同) 阿含宗

◎献花台奉仕者(敬称略、順不同) 未生流(谷口信甫・深谷仁甫・里村紀甫・小林美知甫・磯村悦甫・牧野涼甫、東末生流(高橋良久・嘉藤良榮・藤田良啓・井上良郁、草翠流(原 房江・黒須泰斗・黒須彩織・林 聖子)、松葉流古流(田中一秀・田中一桜・木村一恵・中久喜一綾)、遠州流一森会(名鏡一富・名鏡一玲・堀内さやか・倉石一青・もりたももか・松山一幸、美風池坊(小島美陽・小島能久・西田栄舟・坂口美宝)、古流松濤会(高梨理園・佐々木理修・高橋理厚・亀岡理秀・山本理政・米津理純、駿東流(小泉恵華・御園奈美江・御園菊絵・御園まお)、未央古流(川口一爽)、駿東流(小泉恵華・御園奈美江)

令和3年7月31日まで受付分を掲載、8月1日以降受付分は次号に掲載します。

国民学校3年生のとき校庭で出征兵士の出発式があり、その直後、担任の先生から、「今日の授業は受けなくてよろしい。お父さんを駅まで見送りに行ってきなさい」と言われ、見送りの列に加わって駅までの2kmを歩いた。3か月後、戦場に行くとの知らせがあり、母と妹、弟そして私の4人で面会に行った。僅かに30分くらいの面会が許されたが、その姿は、今でも鮮やかに思い出せる。

【語り継ぐ戦中・戦後④】 英霊への思い

埼玉県上尾市 大西 亮

父が召集されたのは昭和18年9月、すでに戦局が悪くなっていた。30歳代になつて出征する人は少なかったため不吉な予感が走った。フィリピン国ミンダナオ島で戦死、日付は昭和20年9月4日、35歳、となっている。



絶な戦死であり、慄然とした。正しく此処が戦場であろう。昭和18年9月、ナザブ平原に空輸された豪第7師団と中井支隊が、激戦を交えた処である。我が工兵隊も歩兵と共に敵陣に突入し、小隊長代理の私の親友合六曹長が、部下9名と共に戦死している。発掘場所に蠟燭を灯し線香を手向けて戦友の霊を弔った。

その夜、ホテルの私の枕元に戦友たちが現れた。20名ほどの兵であった。前列の6名は姿も表情も鮮明で、新しい帽子に新しい軍服で、顔もふつくらして嬉しそうに笑った。再び眼を閉じると、彼らが崖の下の道を歩いて行くところであった。決して単なる夢ではない。世の中には人智の及ばぬことがあるという。英霊の加護を信じるに足る貴重な体験であった。奇しくもその日は私にとって最後の遺骨収集の日であった。当時92歳の私に逢いに来てくれた、孫のように若い戦友達の姿は、今でも鮮やかに思い出せる。

過去3回にわたり入会案内を同封しましたが、皆様のご紹介により多くの方々に入会頂きました。また、多くの会員からご奉納を頂戴致しました。衷心より厚く御礼申し上げます。 一方、正会員の年会費の納入が滞り気味です。奉仕会は皆様の貴重なご芳志によって支えられております。会費納入の該当月が広報紙発行月とその翌月(今回は9月、10月)の方及びそれ以前の方で会費未納の会員の皆様は振込用紙を同封致しました。皆様何卒よろしくお願致します。また、住所変更等による広報紙「千鳥ヶ淵」送付先の変更、及び送付中止をご希望の方は千鳥ヶ淵戦没者墓苑奉仕会宛ご連絡下さい。

昭和天皇御製碑  
秩父宮勢津子妃殿下揮毫

くのにのためのいのち  
さやげしひとくくの  
ことをおもへばむねせまり  
くる

(第三面からつづく)

それが最後となった。  
更に5年後、見送りに行ったあの同じ駅で英霊となった父を迎えたことは、70年以上が経っても忘れることが出来ない。死亡の日が戦争の終わった後の昭和20年9月4日という理由もいまだに確かめていない。

20年前、厚生省のお世話で百人の遺族とフィリピンの島々を巡る慰霊の旅に参加した。フィリピンでは日本人が50万人、現地の人々が100万人亡くなっていると聞いた。それにも拘わらず、私の印象では対日感情はとて良かつたと思う。ガイドさんの温かい態度、慰霊祭の後のささやかな現地での交流会、小さな小学校を訪問したことが思い出される。そのような所で英霊の皆さんは安らかに眠っておられることは、せめてもの慰めである。

あれから20年、最後の慰霊祭を行った3月12日には、あの時の仲間が毎年全国各地から集まって来る。そして、安らかに眠ってくれていることを祈って、靖国神社と千鳥ヶ淵戦没者墓苑の参拝を続けてきた。また、戦争に関する書物や新聞記事を読んだ。戦いで亡くなった人よりも餓死や

上皇陛下御製碑  
常陸宮華子妃殿下揮毫

戦なき世と  
歩みきて思い出づ  
かの難き日と  
生きし人々

榮養失調、伝染病による病死、そして輸送船の沈没による水死が圧倒的に多いことを知った。間もなく私たちの時代は終わろうとしている。遺骨収集の作業は諦めないで続けてほしいと願っている。

墓苑便り(奉仕会だより)

○9・10月の献花予定  
帝国華道院研究部の会員による9月10月の献花は次の方々です。  
ご来苑の際は、是非ご鑑賞下さい。

9月 古流桜会 本加 理威  
相阿弥流 佐々木幸園  
柴山古流・緑山流 沼田 冷笑  
都古流一孝会 内田 一孝  
和光古流 高橋 理淳  
和光古流 汐満 理和  
池坊宝生流 大澤 勝風  
池坊宝生流 長谷川一翠  
柴山古流・緑山流 濱口 冷雅  
日新流 小田切博新  
藤栄流 落合 一文

○投稿記事等の依頼について  
広報紙549号(本年5月号)に掲載し、今回挿入した折り込みチラシに記載した通り「かけがえのない日本、かけがえのない世界」の投稿をお願いしております。締め切り間近です。チラシをご覧頂き、是非ともご投稿願います。また、裏面には、藤原様の著書の案内も掲載しております。前回の広報紙に記載しましたように好評を博しております。こちらの購入をご希望される方も、ご一報願います。

○鈴木会長の来苑  
6月30日、鈴木俊二会長は就任後初めて墓苑を訪れた。草刈、羽毛田副会長、山崎理事長とともに鈴木会長が環境大臣時代に面識のある吉成管理事務所長が迎える中車両で来苑し、当初、六角堂にて献花・拝礼を行った。引き続き山崎理事長から六角堂、御製の碑、前屋における献花等墓苑の各施設等に関する説明を受け、休憩所における感染対策を確認して懇談会に移行した。

懇談会では奉仕会の活動状況について報告が行われた。状況報告終了後、会長より厚生政務次官時代に墓苑に訪れたことに触れつつ「ご遺骨に対して最大限の敬意をもって迎え入れることが必要である」といった発言があり、戦没者慰霊に対する熱い思いを吐露された。現職の衆議院議員という大変なご多用中にあっても、今回のご来苑にあたり貴重な時間を割いて頂き、奉仕会としての活動をご理解頂いたものと確信している。

○令和3年度秋季慰霊祭のお知らせ  
令和3年度秋季慰霊祭は10月18日13時から開催を予定しておりますが、新型コロナウイルス感染症防止の観点から実施要領の検討を行っております。昨年度と同様に例年の約5分の1程度で実施することと致します。ただし、感染拡大の状況によっては、更なる縮小や行事の中止も考えております。

つきましては、例年ご案内しております関東一円の一般会員の皆様へのご案内は致しません。例年ご参加を頂いている皆様には大変申し訳なく思っておりますが、現下の事情をご理解賜り、それぞれの場所において御心をお寄せ頂くとともに祈りを捧げて頂ければ幸甚に存じます。なお、来年以降コロナ感染症が終息すれば、例年同様ご案内を差し上げる所存であります。その際には多くの会員の方々にもご出席賜りたいと思っております。

左から、羽毛田副会長、鈴木会長、草刈副会長、山崎理事長

宝くじ桜

一輪車

ドリームジャンボ絵本

移動採血車

宝くじは、

図書館や動物園、学校や公園の整備をはじめ、少子高齢化対策や災害に強い街づくりまで、さまざまなかたちでみなさまの豊かな暮らしに役立っています。

青色回転灯パトロール車

下水道啓発パンフレット

自然公園案内映像展示設備

遊具

宝くじは、

図書館や動物園、学校や公園の整備をはじめ、少子高齢化対策や災害に強い街づくりまで、さまざまなかたちでみなさまの豊かな暮らしに役立っています。

宝くじは、

図書館や動物園、学校や公園の整備をはじめ、少子高齢化対策や災害に強い街づくりまで、さまざまなかたちでみなさまの豊かな暮らしに役立っています。

宝くじは、

図書館や動物園、学校や公園の整備をはじめ、少子高齢化対策や災害に強い街づくりまで、さまざまなかたちでみなさまの豊かな暮らしに役立っています。

宝くじは、

図書館や動物園、学校や公園の整備をはじめ、少子高齢化対策や災害に強い街づくりまで、さまざまなかたちでみなさまの豊かな暮らしに役立っています。

宝くじは、

図書館や動物園、学校や公園の整備をはじめ、少子高齢化対策や災害に強い街づくりまで、さまざまなかたちでみなさまの豊かな暮らしに役立っています。